



放射線の基礎講座 病院でエックス線検査を受けられる方へ(第 17 回)

岡山大学大学院保健学研究科 准教授
診療放射線技師・医学博士 澁谷 光一

「放射線の基礎講座」と題して、4 回にわたり連載させていただきましたが、皆様から感想や質問をお寄せいただきました。看護師を目指す学生さんからは、「患者さんの放射線に対する不安に私達も応えられなければならない」、「妊娠の時期により放射線の影響が異なる、などの知識は身につけておかなければならないと思った」、などの感想をいただきました。番外になりますが、いただいたご質問にお答えしたいと思います。(質問は、一部表現を変えています)。

Q1 プロテクターを付けていない部位がありますが、大丈夫なのですか。
(看護師を目指す学生さん)

A1 プロテクターを付けていない部分も同じように被ばくしますが、人体に対する影響は部位によって異なります。体幹部は三つの部位に分けます。「頭頸部」、「胸部上腕部」、「腹部大腿部」です。女性の卵巣を含めて、重要で、かつ放射線に対する感受性が高い臓器、組織は、胸部・腹部にあるため、通常、プロテクターは胸部・腹部を覆うタイプのもを着用します。脳などは大切ですが、放射線に対しては非常に抵抗性なのです。しかし、頭頸部でも、眼の水晶体、頸部にある甲状腺などは、放射線に弱くないとはいっても、限度がありますので、鉛ガラスの入ったゴーグルを着用する場合や、よだれかけのような、首に巻くプロテクターを着用することがあります。